



きたかた商工会女性部長

清野 由美子 氏

平成22年4月からきたかた商工会女性部長として活動し、また、福島県商工会女性部連合会副会長でもある。女性の特性を活かし、地域振興の発展や豊かなまちづくりのために活躍している。

現在の活動内容について

私は現在、きたかた商工会女性部長、会津地区商工会女性部連絡協議会会長、福島県商工会女性部連絡協議会副会長を務めています。

きたかた商工会は、熱塩加納村、塩川町、山都町、高郷村の旧4町村の商工会の合併により平成22年4月にできましたが、私は合併と同時にきたかた商工会女性部長となりました。

女性部の活動は、4地区それぞれに予算を組んで事業を実施しています。高齢者施設への慰問やぞうきんの寄附、道路の清掃美化活動、各種イベントへの協力など各地域に根ざした活動を展開しています。また、商工会女性部の全体事業として、花いっぱい運動を実施しており、会員同士が協力し合い、明るいまちづくりを目指し一体感を持って活動に取り組んでいます。

まちづくりの活動を通じて

きたかた商工会ができる前、私は山都町商工会女性部長をしており、まちづくりに力を注いできました。昔は“そばと言えば山都町”と言われていましたが、そばまつりが各地で開催されるようになり、危機感を持つようになりました。

平成19年1月、山都町の一ノ戸川橋梁を渡る電車を見て、暗闇に電車が消える様子が宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」の世界のように見え、とても感動しました。いつも見慣れている風景が新鮮に感じ、ふと、この橋梁をライトアップしたらすてきだろうと考えました。早速、当時の市長に提案をしたところ、素晴らしいアイデアだと言っていただきました。さらにライトアップの実現のためにご協力を頂きました。

まずは、市長とともに嘆願をするため、一ノ戸橋梁を管轄するJR東日本新潟支社長のもとを訪れました。「そばの次の宝さがしのため、町おこしのため、ぜひライトアップをしたい」と説明したところ、取り組みに賛同してくださいました。JR東日本新潟支社の方が実際に一ノ戸橋梁の安全性などを確認し、平成19年8月に試験点灯を行い橋梁のライトアップが実現しました。暗闇の中、青や黄色、紫にライトアップされた橋梁はとても幻想的で、まさに「銀河鉄道の夜」そのものでした。



一ノ戸橋梁ライトアップ

その後、JRの協力でライトアップされた一ノ戸橋梁の写真パネルが東京駅に飾られました。このことは、山都町を知っていただく良い機会となり、大勢の方に訪れていただくようになりました。遠くは北海道や広島からお越しいただいており、大変感謝をしています。橋梁のライトアップの美しさに感動されている方の姿を見ると、私自身嬉しさを感じるとともに励みにもなります。ライトアップは継続事業として今も行っております。

まちづくりのための企画を出しても一人では何もできません。物事を実現するには、まちが一体となって取り組んでいける体制が必要不可欠だと思います。

地域の宝探しはお金をかけることなく、アイディアはみんなで考えれば出せるので、自分たちの足元をもう一度よく見てみるのが重要だと思います。無いものねだりをするのではなく、今あるものをいかに活用していくかが大事であり、歴史の再発見にも繋がります。宝を掘り起こそうとする行動力がまちを元気にしていくだと考えています。

ゴールデンウィークや夏休みなどの長期休暇の際は、SLの写真撮影に来られる方がたくさんいらっしゃいます。今新たに、山都町をイルミネーションのまちにできないか構想しています。また、夜ライトアップされた一ノ戸橋梁をSLが走る光景を思い描いています。商店街を生かしながら、人が集まる場所にしていくにはどうしたらよいか、どういうものが観光客に受け入れられているのか、日常からリサーチしながら考えています。

震災復興のためにできること



スパリゾートハワイアンズにて

震災以降、きたかた商工会女性部の研修として双葉地方の被災された方に講演をしていただいたり、また、視察研修で宮城県松島の被災地を訪れました。仮設商店街で少しでも復興のお手伝いができたらとの思いで実施しています。直接の支援はできなくとも自分たちの目で被災地の現状を見て、正しく伝えていくことも大切な役目と感じながら宮城県やいわき市の被災地を毎年訪問しています。私たちに何ができるか分かりませんが、勇気づけることはきっとできていると思っています。被災された方に少しでも元気になってもらいたいと思い被災地を訪問していますが、復興に向かって懸命に歩んでいる姿にこちらが元気をいただいています。

実は、震災前日の2011年3月10日に私は宮城県の松島、塩釜方面を旅行していました。松島に滞在していた際に震度5の地震があり、見たこともないカモメの大群が騒いでおり、胸騒ぎのようなものを感じました。また、歌謡ショーを見るためコンサート会場にいたときに揺れを感じました。テレビを見て情報を知った友人、知人からすぐに安否を心配する電話やメールがたくさん入ってきて、その状況に驚いていました。旅行はその日までの日程でしたので、帰路に着きました。

3月11日の震災当日の午後は、翌日から開催される山都町の「寒ざらしそばまつり」の準備をしてい

ました。前日の地震のこともあり、大きな不安でいっぱいであったことを覚えています。テレビの報道で見る映像は目を疑いたくなるもので、昨日までの穏やかな日常が一変してしまった方々のことを思うと、言葉になりませんでした。

私は、前日に旅行から帰ってきたため、幸い被災せずにすみましたが、もし1日帰ってくるのが遅かったらと考えると今でも怖くなります。私たちが宿泊していたホテルが被害にあったとニュースで知り、とても胸が痛みました。自分はたまたま助かりましたが、東日本大震災のことは自分の身に起きたことのように感じています。

被災し、先が見えない状況で苦しい思いをしている方々のために、何か手助けがしたい、私に大したことはできなくても元気づけることだけでもしたいとの思いでいっぱいになりました。

私は、福島県商工会女性部連合会の副会長をしておりますが、以前から交流のあった双葉地方の商工会女性部長が福島県外に避難したと知り、すぐに家族分の衣類などの生活必需品を送りました。その方は着の身着のまま避難したので大変助かったと涙ながらに話してくれました。私にとっては他人事ではなく、自分のことのような感情を抱いたので、いてもたってもいられなく行動していました。また、避難生活を賠償金に頼るのではなく、自分たちの力で一歩進んでいきたいと昨年茨城県のつくば市で寿司屋を再開した浪江町商工会女性部の方がいました。福島県内の商工会女性部には視察研修を実施するときにはぜひそのお店でお寿司を食べて応援してほしいとお願いしました。その方が「自分たちのことを気にかけて足を運んでくれたことが何よりうれしかった」と話していたと聞き、この言葉は私自身の励みになり、これまで以上に絆を大切にしていきたいと思いました。

辛い震災を経験し、立ちあがろうと頑張っている方々にこれ以上「頑張れ」と声をかけることはできません。「頑張れ」と言うのではなく、「私たちと一緒に頑張ろう」と声をかけて復興のために活動していきたいと考えています。

幸い会津は震災の直接の被害はなかったものの、放射能に対する風評被害が大きく、観光地を直撃しました。また、米や野菜が売れず、農業、商工業とあらゆる分野で被害が拡大し、大きな不安に包まれました。このままではいけないと、福島県商工会女性部連合会としてテレビの各報道番組で福島県の現状を訴えていこうと真剣に考えました。待っているは何も変わらない、自ら行動を起こして、情報を発信していかなければいけないと思ったからです。福島県民として一緒に苦しみを分かち合い、乗り越えていくことが大事だと考えています。

きたかた商工会女性部として、東日本大震災で不幸にも親を亡くしてしまった子どもたちのため、「あしなが育英会」へ寄附を行いました。子供たちが私たちの想像を絶する体験をしてきたと思うと胸が苦しくなります。子どもたちが未来に向かって笑顔で過ごせる日が来るよう心から願っています。また、そのための活動を続けてサポートしていきたいです。

交流の輪

震災後、きたかた商工会女性部に突然プレゼントが届きました。送り主は熊本県の男女共同参画の会「みらい」というところからでした。きたかた商工会女性部員全員に会員さんの手作りの「EMせっけん」と「アクリルの食器洗い」が入っていました。

送ってくださった方がきたかた商工会女性部員のお知り合いの方で、熊本県から福島県の復興を強く願う手紙には、私たちへの思いやりが溢れていました。遠い空の向こうから応援してくださる方がいると思うと胸が熱くなり、負けてはいられないという気持ちがより強くなりました。

自分たちのことを思ってくださることに心から感謝をしています。私たちの感謝の気持ちとして会津の伝統工芸品の赤べこをお送りしました。熊本県と福島県は、距離は遠いですが、お互いを思いやる心の距離は近いと感じています。これからも交流の輪を大切にしていきたいです。今年は大きな「くまもん」のぬいぐるみと部員全員（約100名）に手作りの「くまもん」の人形をいただき感激しました。

今後の展望

きたかた商工会女性部員を増やしていかなければと考えています。イベントを開催するにしても家庭のことが忙しく、参加が厳しいという現実があります。一人ひとりが大きなボランティアをするのではなく、小さなボランティアをみんなで少しずつ持ち寄れば大きな活動になると思っています。助け合いながら、まちをより良くしたいという気持ちを持って、これからも私にできることを一生懸命取り組んでいきたいと考えています。



きたかた商工会女性部イベント

私は、山都町で商売をさせていただいていますが、まず基本となるのは農業だと思っています。農業があってこそ商業や観光業が成り立っていると感じています。様々な業種が手を取り合って協力していけばより魅力ある地域づくりを発展していけると思います。今年の4月から6月にかけて「ふくしまディステーションキャンペーン」が開催されます。暖かいおもてなしの気持ちでお客様を迎えたいです。お越しいただいた方々が福島県に良い印象を持っていただき、また福島に来たいと思えるよう精一杯努力したいと思います。活動を通じて、福島県の復興の一端を少しでも担えることができればうれしい限りです。